

## イチゴ疫病罹病性の品種間差

園芸試験場

### 1 取り上げた理由

イチゴ疫病は、品種「麗紅」が罹病性であることが知られている。近年、新品種の普及やロックウール栽培の増加によりイチゴ疫病の発生が懸念されるため品種間差を検定したところ成果が得られたので参考資料とする。

### 2 参考資料

#### 1) イチゴ疫病品種間差

「麗紅」強罹病性、「女峰」弱罹病性、「とちおとめ」「さちのか」抵抗性。

#### 2) 栽培方法の違い

土耕栽培で発病しにくい品種でも、ロックウール栽培で発病する場合がある。

ロックウール栽培で発病すると、発病株率およびクラウン部における褐変率が高くなり発病程度が高くなる。

### 3 利活用の留意点

1) 前年や過去に発生した土耕栽培圃場では必ず土壌消毒を行う。ロックウール栽培圃場では、病原菌が資材等に付着し生存している可能性が高いので、次作には必ずケミクロンG、熱水処理等により資材等を消毒をする。

2) 罹病苗を定植すると、健全苗に伝搬し発生が拡大するので必ず無病苗を植える。

3) 排水不良地では発生しやすいので、排水管理に努める。

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

高収益養液栽培技術の確立 平成9年～12年

##### 2) 参考データ

表-1 イチゴ疫病の土耕栽培における品種間差 (1999年度)

品 種	地上部発病株率 (%)	クラウン部褐変率 (%)
女 峰	40	20
麗 紅	100	100
とちおとめ	0	20
さちのか	0	20

※人工培土「がんばるくん」

表-2 イチゴ疫病のロックウール栽培における品種間差 (1999年度)

品 種	地上部発病株率 (%)	クラウン部褐変率 (%)
女 峰	60	60
麗 紅	100	100
とちおとめ	0	20
さちのか	20	40

※ロックウール粒状綿培土

##### 3) 発表論文等

なし